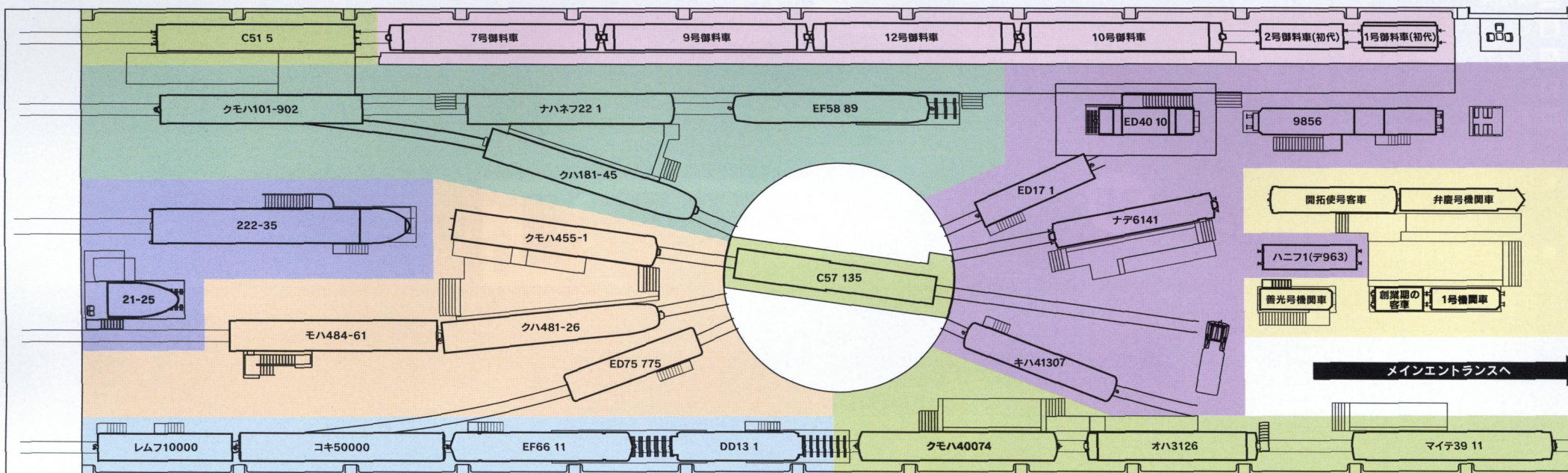


【ヒストリーゾーン 1F】



1. 日本の鉄道の黎明期

鉄道開業時から新橋～横浜間を走った1号機関車(150形式)をはじめ、埼玉県最初の鉄道工事に活躍した善光号機関車(1290形式)など、明治期の日本の鉄道で活躍した車両が展示されています。1号機関車周辺では、開業当時の新橋駅の様子を部分的に再現して展示しています。

2. 全国に広がる鉄道網

明治後期から大正時代にかけて、全国に鉄道網が伸ばされた時期に活躍した車両を展示しています。幹線輸送の難所で使用された機関車、都市部での輸送に活躍した電車、ローカル線の合理化をめざした気動車など、さまざまな動力方式の車両が展示されています。大正期の万世橋駅や昭和初期の大宮工場の様子を部分的に再現して展示しています。

3. 特急列車の誕生と通勤輸送の始まり

昭和戦前期の鉄道黄金時代に活躍した車両を展示しています。特急列車の象徴的な存在だった展望車、特急の先頭に立つて活躍した蒸気機関車、本格的な混雑を見せるようになった都市部の通勤輸送に活躍した電車などが展示されています。海外への長距離輸送が旗本立東京駅、御茶ノ水駅の様子を部分的に再現して展示しています。

4. 大量輸送と電化時代

戦中戦後の混乱期をへて、鉄道はさらなる技術的飛躍を見せます。各地の路線で電化が進み、それまでの機関車が客車や貨車を牽く方式から、動力を各車両に分散した電車や気動車が鉄道の主役となり、車両や施設の近代化が進みました。通勤電車の基本を確立した101系、電車時代の到来を決定的にした151系のモデルチェンジ版「181系」走るホテルと呼ばれたサービスを提供した20系客車など、展示されていきます。

5. 全国に広がる特急網

昭和30年代に技術が確立された交流電化の進展により、全国に電化区間が広がりました。そして直流区間・交流区間を直通運転できる電車の開発により、全国各地に特急・急行列車が運転されるようになります。全国で特急に活躍した485系や、交流電気機関車の標準形となったED75形式などが展示されています。また東日本各地への優等列車の始発駅として賑わった上野駅の様子を部分的に再現して展示しています。

6. 新幹線の誕生

明治以来、狭軌の制約を克服すべく培われた鉄道技術を
集大成し、当時、輸送がほぼ限界に達していた東海道本線の
技術的改善として誕生したのが、東海道新幹線です。交流
電化・電車方式などの信頼性の高い技術を組み合わせ、世
初の200km/hでの営業運転を実現させた東海道新幹線の
初代車両、0系の前頭部。そして東北・上越新幹線で使用
された200系が展示されています。

7. 鉄道による貨物輸送

明治以来、鉄道は旅客とともに貨物輸送を行ない、国内物流に大きな役割を果たしてきました。こうした貨物輸送の歴史と、環境にやさしい特性を生かして輸送に取り組む、貨物輸送の現在の姿を紹介します。国鉄最大出力を誇ったEF66形式電気機関車、コンテナ輸送到活躍したコキ5000形式、鮮魚などを運んだレムフ10000形式などが展示されています。

8. 御料車の歴史

御料車とは天皇・皇后両陛下をはじめとした皇族の御巡幸に使用される専用客車です。明治天皇が京都～神戸間の鉄道開業時に際して乗車された1号御料車(初代)から、摂政宮時代の昭和天皇の御乗用に製造された12号御料車まで、6両の御料車が展示されています。これらの車両は各時期の美術・工芸技術の粋を凝らした内装をもち、走る芸術品とも言われています。

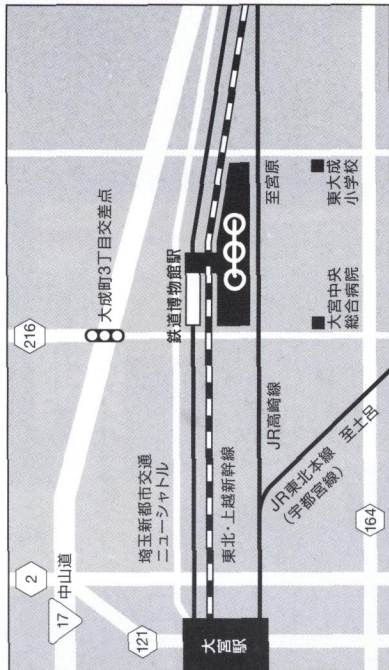
内 稼 利 用

開館時間	10:00～18:00 (入館は17:30まで)		
休館日	毎週火曜日および年末年始(12月29日～1月2日)		
入館料	個人	団体	
一般	1,000円(税込)	800円(税込)	
小中高生	500円(税込)	400円(税込)	
幼児(3歳以上未就学児)	200円(税込)	100円(税込)	

添乗員、ご引率の方を含む20人以上を団体とさせていただきます。

アクセス

JR大宮駅より埼玉新都市交通ニューシャトルにて
「鉄道博物館駅」下車、徒歩1分



「Teppa倶楽部」(てっぱクラブ)

年間フリーパス、その他特典あり。

一般	3,000円(税込)
小中高生	1,500円(税込)
幼児(3歳以上未就学児)	600円(税込)

※詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.teppa-club.jp/>

Suicaシステムについて

入退館と館内体験展示予約には、Suicaシステムを使用します。モバイルSuica、PASMOもご利用可能です。Suicaをお持ちでないお客様には貸出館カードをご用意します。館内のストランやミュージアムショップなど館内施設ではSuica電子マネーがご利用できません。

入退館について

●Suicaをお持ちの方
電子チャケット販売機で電子チャケットをお求めください。入館ゲートでの入館料支払いはできません。

●Suicaをお持ちでない方

入館カード貸出機で入館カードをお求め下さい。お帰りの際は、有人ゲートにてカードをご返却下さい。

※館内体験展示施設をご予約の際は、上記の入館に使用したカードを使用し、体験展示予約機にて予約操作を行って下さい。お支払いは各施設でご精算下さい。

ロゴデザインコンセプト

● 人、物、文化を運び、文化を飛躍的に向上させてきた鉄道。その全ての車両に共通する「車輪」をシンボル化しています。● 駅と駅をつなぐ鉄線も象徴化しています。● 3つの輪は、鉄道博物館の「歴史」「教育」を表します。● 鉄道博物館が常に「進化し走りつづける」活動体であることを表現しています。● 鉄道博物館は、旧日本国鉄創立20周年記念事業です。